
ダリヤとエドワード

ハルカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ダリヤとエドワード

【Nコード】

N8801X

【作者名】

ハルカ

【あらすじ】

ザイン伯爵家の侍女として日々仕えるダリヤ。

平凡で平和に使用人ライフを満喫していたはずが、なぜか最近、使用人仲間がよそよそしいような…。「えっと、皆さんなんで目を合わせてくれないんですか？なんで話しかけてもひきつった笑顔なんですか？なんでなんでー？」

ひょっとして私、嫌われてるのでしょうか？でも、女性の使用人は仲良くしてくれてるし…。あれ、もしかして、おかしいのは男性だけ？なぜなぜ？なぜなのですか？！

1人どん底に落とされるダリヤ。そんな時、自らが仕える伯爵家の
子息、エドワードが秘密の鍵を握っていると小耳に挟んだダリヤだ
が……。

（前書き）

初投稿です…。

私の名前はダリヤ・ロックフォード。ザイン伯爵家の侍女として働いています。

ちなみに今年、花も恥じらう16歳になりました。うふつ。

…えっ？誰と話しているのかって？そこはまあ、乙女によくある独り言みたいなものです。たいていお屋敷の皆さんは、そんな私を生暖かい目で見てください。

…ええ、決して冷たい眼差し等ではございません。多分。最近、執事のクロードさんがなんだかよそよそしいのも、庭師のリベンツさんが庭で採れた木苺や桑の実をお裾分けしてくれなくなったのも、馬飼いのヘンリーさんがびびでいばびでいぶー（黒々としたたてがみが素敵な馬 5歳）に触らせてくれなくなったのも、気のせいです。

いや、気のせいのはず…え、私何気に嫌われてる？そんなまさか？！

なんて物思いにふけっていると、

「ダリヤ、あんた頭大丈夫？また魂飛ばしてるでしょ」

こちらを呆れた目で見える金髪碧眼の美しい乙女。彼女はレイチエルといつて、私の侍女仲間です。

侍女として私の先輩でもあり、良き友人と言っても過言ではないでしょう。彼女の豊満な乳を少し分けてくれと思った事も多々ありますが。

「あんた、まだ仕事終わってないでしょ。呆けてる暇あるなら、さっさと仕事しなさいっ！」

髪を逆立てんばかりの勢いで雷を落とすレイチエル。

「えっと…えっと、さっき侍女長に言いつけられた、ユリの花を中

庭から摘んでくる途中でしたっ！それでは急ぐので、またっ！」
そそくさとその場を後にします。美人が怒ると迫力がありますね。
ちなみに、この口調は癖です。友人であろうと、なかなか抜けませ
ん。

「こらっ、廊下を走るんじゃないわよっ！」

これは走ってるんじゃないや、早歩きです！

心の中で必死に言い訳をしながら、中庭に全力ダッシュしました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8801x/>

ダリヤとエドワード

2011年11月12日21時21分発行